横浜市立 並木第一小学校　令和 7 － 9 年度版　中期学校経営方針　（ 令和 8 年度修正 ）

学校教育目標	「わたしの生活は、わたしが創ります」 〇学んだことを生かして主体的・対話的に考え、深く学び続ける子（知） 〇互いのよさを認め合い、よりよい生き方を求め、協力し合う子（徳） 〇命と体を大切にし、心身共に健やかな体をつくる子（体） 〇進んで人のために役立とうとし、地域に愛着をもつ子（公） 〇広い視野をもち、チャレンジし続ける子（開）

学校概要					
創立 48 周年	学校長 松﨑 由里子	副校長 服部 可奈	2 学期制	一般学級：11	個別支援学級：4
児童生徒数： 287 人	主な関係校： 富岡東中学校 並木中学校 並木中央小学校 並木第四小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
〈言語能力〉 〈問題発見・解決能力〉 〈自分づくりに関する力〉

並木中・富岡東中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
富岡東中学校 並木中学校 並木第一小学校 並木中央小学校 並木第四小学校	①自ら考え行動し、課題解決に向かう子ども ②豊かなコミュニケーション力で、積極的に人と関わる子ども ・あいさつ運動の推進 あいさつポスター交換・掲示 「まずは教職員がモデルを示そう！」の意識 ・子ども会議を受け、各校での発信、具体的な取組へ繋げる ・地域と積極的にかかわる場の活用 ・自他を受け入れ互いに認め合う風土創り 教育活動の中でまず相手の話を聴く ・子どもが自らの困り感に対してヘルプを出し、居場所や学びの場を自己選択、自己決定できるような特別支援教育についての共有や研修

中期取組目標
〇家庭・地域と連携し、地域の教育力を活かしながら、子どもが安心して生活できる学校づくりをすすめます。 〇教職員一人ひとりの持ち味を生かし、互いに啓発・連携し合い、全員で学校づくりに参画できるようにします。 〇子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的に考え、表現できる学びを充実させます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①並一タイム（生活・総合的な学習の時間）を中心に、子どもが自分の思いを大切にして、地域の「人・もの・こと」と関わりながら主体的に学びを深めていくため、授業研究会を行い外部講師の指導を仰ぎ、教師の指導力向上を目指す。②スキルタイムを活用して、漢字や計算など基礎的な学力の向上を目指す。
担当	研究開発運営部	
徳	人権教育	①発達支持的児童指導を大切にし、子どもたちが支え合う風土を高める。②「だれもが」「安心して」「ゆたかに」のキーワードを共有し、一人ひとりが安心して学べる学校をつくる。③日々の授業や活動、関わりを通して、自尊感情や自己有用感を育む。④ピンクシャツデーや横浜こども会議など、子どもたちが主体的に取り組む。⑤職員研修に取り組む。
担当	児童支援運営部	
体	健康教育	①横浜市体力・運動調査や健康診断の結果から、家庭と連携し、基本的生活習慣を身に付けようとする姿勢を培う。また、日常的に体力向上を図るための取組を行う。 ②学校保健委員会を開催し、家庭や地域及び関係機関と連携を図り、健康習慣が身に付くようにする。
担当	総務運営部・体育部	
公開	自分づくり教育	①並一タイム（生活・総合的な学習の時間）を中心に、子どもたちが体験的に学ぶ機会を積極的に取り入れ、「ひと・もの・こと」と豊かにかかわり、考えを深め、自己有用感の高まりへつなげていけるようにする。
担当	評価改善・研修運営部	
いじめへの対応		①担任による健康観察に加え、ICTを活用した健康観察を実施する。②全校児童アンケートを実施し、いじめの未然防止や早期対応につなげる。③全職員による丁寧な見守りで、小さな変化や違和感を見逃さず、速やかに複数で共有して組織的な対応へつなげる。④子どもの思いをしっかり傾聴し、正確な言葉で記録をする。⑤どの職員でも対応できるように研修を積み重ねる。
担当	児童支援運営部	
人材育成・組織運営(働き方)		①定期的に教務会や学年主任会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設ける。 ②5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって研修を充実させ、若手育成を図る。③ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、働き方改革につなげる。
担当	教務部・メンター研	
多文化共生		①外国籍やつながる子どもの一人ひとりのニーズを把握し、「国際教室」「担任」「本人」「保護者」で丁寧に共有しながら日々の指導を積み重ねる。②子どもたちの興味を大切にして、外国の文化に関連するものを介して理解を広げていく。③子どもや保護者の支援のために金沢国際交流ラウンジと連携を図る。
担当	児童支援運営部・国際	
特別支援教育・国際教室		①一人ひとりのニーズに応じた個別の支援計画や個別の指導計画を活用する。②一般学級や特別支援教室、通級指導教室、個別支援学級などの学びと連携を図る。③SC等の心理の専門家から、発達特性やその効果的な関わり方について助言を受ける。④南部地域療育センターのソーシャルワーカーによるコンサルテーションを実施し、児童理解に取り組む。
担当	児童支援運営部・国際	
Pハート隊・学校運営協議会【地域連携】		①保護者やPハート隊の協力を得て、校内外での学習補助等、子どもたちの学校生活をサポートし、児童の安心感や充実感につなげる。 ②学校運営協議会と連携し、地域とともに開かれた学校づくりに取り組む。
担当	教務部	
異校種交流		①幼保小中の連携・協働を通した育ちと学びの連続性、切れ目ない支援を目指して、安心して学べる環境を整える。 ②幼保小中交流や金沢支援学校、金沢総合高等学校との交流を通して、他者意識を高め、思いやりの心を育む。 ③小中ブロックで「あいさつポスター」交流を行い、あいさつを通して主体的に他者と関われるようにする。
担当	研究開発・異校種交流	